

大阪 ■ ■

No.41 2009.1.24.

大阪哲学学校運営委員会 Copyright©, 2007

哲学学校

■ ■ 通信

【郵便振替】01170-1-81313

【E-mail】oisp@mac.com

【Home Page】<http://oisp.jp/>

【代表者】山本 晴義(校長)

【発行者】平等 文博(運営委員長)

【編集者】平等 文博

2009年を迎えて—世界史的転換点に立って

山本 晴義(校長)

I

年末年始、「派遣切り」によって仕事と住居を失い寒空の路頭に放り出された人たちに、炊き出しや宿泊場を作る日比谷公園の「年越し派遣村」の姿が連日ニュースで報道され、今年は、とても「明るい新春」という気分にはなれませんでした。

私は昨年の新年号(No.40)の『2008年を迎えて』でジェコブ・ワイズバークの言葉を借りて、アメリカ中間選挙におけるブッシュ政権の大敗が、レーガン以来の「新自由主義」(福祉の削減、市場万能、規制緩和、資本の競争強化、格差の拡大)的なグローバリズムの支配、さらにブッシュのイラク戦争における単独行動主義、先制攻撃主義が、アメリカ国民はじめ、世界から孤立し、今や「終着点」にきていることを指摘しました。そして私は憲法改正、靖国ナショナリズムを掲げて、限りなく対米追随路線、弱肉強食を強行した小泉内閣、そして前代未聞、安倍、福田と二代続けて政権を放り出し、現在支持率二〇%を割っている麻生内閣が、異常な

大企業擁護とともに派遣労働の規制緩和、年金・医療・介護・障害者……生活保障の削減、格差社会、「ワーキングプア」を生み出したのだと言うことを述べました。

冒頭に書いた「派遣村」は、一昨年以來アメリカで、「サブプライムローン」、証券大手リーマン・ブラザーズの破たんから、世界経済の金融危機、「ドル時代の終焉」にもともと原因があります。

II

現在私達が努力しなければならないのは、今後の新しい世界の発展について可能な限り、たしかな展望を持つことだと思います。『季報・唯物論研究』(106号)の拙論「憲法とマスコミ」の追記で私は今、三〇年代の「ニューディール」より、さらに革新的な「二世紀型ニューディール」の実現が必要だと書きました。麻生内閣の「定額給付金」のような選挙目当ての案をこねまわしているのでは話にならない。

ご存知のように1月20日、アメリカで初

めて黒人の大統領に就任するバラク・オバマは「グリーン・ニューディール」を提唱していますが、ここには、あのフランクリン・ローズベルトが二九年の大恐慌後三〇年代にきびしく資本と闘ったすぐれた精神が流れていると思います。新自由主義的な規制緩和の名のもとに、一九三三年銀行の証券業務への参入を規制したグラス・スティーガル法が一九九九年に撤廃され、公的規制が失われ、「格差社会」「首切り」競争がおこなわれるのにオバマは反対していません。

また当初からイラク戦争に反対し、核兵器の廃絶、反戦運動を支持し、ブッシュの単独行動主義・先制攻撃主義に反対していますし、一五兆円(一〇年間)を投資して、現在の人類的課題である、大規模な環境・エネルギー投資を行い五百万人の「グリーンジョブ(緑の仕事)」を創出する戦略を構想している。

憲法第九条を持ち、また二五条を持っている私達は、この二〇〇九年という、世界史的な転換点に強いリーダーシップを発揮しなければならないと考えています。(二〇〇九年一月一七日)

戦争廃絶へ、再び踏み出す年に

平等 文博 (運営委員長)

金融破綻と大量の派遣切りという重苦しい雰囲気の中で明けた2009年ですが、遅きに失したとはいえ、ようやく史上最低最悪と評されるあのブッシュが退陣することに、いくばくかの光明を感じた人は少なくないでしょう。

〈9・11〉の犯罪行為に、国際法を無視したアフガン空爆とイラク侵攻という「対テロ戦争」によって応じたブッシュは、第二次大戦の惨禍への反省を踏まえた国連を中心とする国際平和のルールさえ単独行動主義で踏みにじり、「武力による国際紛争解決」の時代へと人類史を引き戻しました。それによって、暴力が暴力を呼ぶ止めどない負の連鎖がいたるところで起こる悲惨な世界に、私たちは再び引きずり込まれた感すらあります。その流れに押されるように日本でも、広範な反対の声を前に頓挫はしたものの、憲法第9条を改め公然と軍隊が持てる「普通の国」にしようとする策動があり、また国際貢献の名のもとに自衛隊の海外派兵を常態化させる動きが今も続いています。

紛争を暴力的に「解決」するという、野蛮ではあるが一面では誘惑的でもある手段とどう
大阪哲学学校通信 No41

やって手を切るか、戦争をどのようにして制限し、さらには決して使ってはならぬ禁じ手にしていくのか——多くの無辜の民が殺され傷つけられる悲劇を性懲りもなく繰り返しながら、人類はその体験に痛恨の思いで学びつつ、徐々に戦争廃絶への道を歩んできました。

神と信念(信仰)の正統性をめぐる争いである宗教戦争では、情け容赦も妥協の余地もない残虐非道な殺戮が当然のおこなわれました。その反省から近代ヨーロッパでは、宗教的権威の凋落と国民国家の成立という背景もあって、戦争の脱宗教化＝理性化が進められます。戦時国際法や国際人道法にもとづく理性的で抑制の効いたフェアプレーを条件として、「異なる手段をもってする政治の継続」(クラウゼヴィッツ)である戦争が国家主権の発動として認められたのです。

しかし、「理性的で人道的な戦争」という幻想的理念は、近代科学技術と国民を総動員した第一次世界大戦の現実によって、ものの見事に打ち砕かれます。「この手で人を殺す」という実感もなく効率よく大量殺人が可能な高性能兵器の

登場、前線と銃後、戦闘員と非戦闘員の区別の有名無実化など、現代の戦争がこれまでの戦争とは質量ともにまったく新しいものになったことが、900万人とも言われる戦死者と何百キロも続く廃墟によって、覆うべくもなく示されたのです。

近代的理性が戦争を手なづけるという幻想が打ち砕かれたあと、国民国家の主権に制限を加えた国際的な枠組みを作ることで紛争の平和的解決を極力めざそうとする動きが国際連盟結成につながっていく一方、いかなる戦争もすべて違法にすべきだとするジョン・デューイらの戦争非合法化運動がアメリカを中心に盛り上がります。そうした運動は、人類史上初めて戦争放棄を宣言した「パリ不戦条約」の原動力ともなりますが、戦争非合法化運動の掲げる目標から外れて、各国が「主権国家に固有の権利としての自衛権」すなわち「自衛のための戦争」の権利を留保したことから条約が骨抜きにされ、第一次世界大戦の惨害をも兇戯に等しくするような第二次世界大戦の勃発を、人類は防ぐことができませんでした。

数千万人にのぼる死者と核爆弾という人類滅亡兵器の登場は、戦争廃絶という人類史的課題の解決がもはや猶予のないものであることを示すに十分でした。紛争の平和的解決を加盟国に義務づけた国際連合憲章が、制限されたとはいえ紛争の軍事的解決に余地を残していたのに対し、新しい日本国憲法は徹底した平和主義を掲げて、戦争廃絶に向かうべき人類史の先陣を切ることとなります。

「日本国民[We, the Japanese people]は、(…)平和を愛する諸国民[the peace-loving peoples of the world]の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と前文で謳い、第9条で戦争放棄と戦力の不保持、交戦権の否認を明記した私たちは、「自衛」という大義名分を含めて一切の軍事力行使を禁じ手にし、「平和を愛する世界の人びと」との信頼関係構築と連帯に自らの安全と生存を賭けたのです。

その後の紆余曲折については省きますが、さまざまな否定的現象にもかかわらず、NGO/NPOに結集する平和を求めるグローバル市民たちが、クラスター爆弾の禁止など、着実にその力を強めてきました。「人間の安全保障」という新しい考え方や平和構築のための思想や運動も広がっています。日本国憲法が生まれた60余年前にはまだはっきりと姿を現していなかった「平和を愛する世界の人びと」が、今ではさまざまな形を取って現われてきています。

〈9・11〉とその後の〈ブッシュの戦争〉は、戦争廃絶への流れを一時的に押しとどめ、時代錯誤の力の論理を復活させました。しかし、「対テロ戦争」をアメリカと一緒に推し進めたイギリスの外相が、軍事的手段優先の考え方では問題解決につながらず、法治主義や地域協力、人権推進がテロへの回答でなければならないと新聞紙上で公言せざるをえなくなったように、たび重なる過ちを乗り越えて私たちは、今年こそブッシュ時代の失われた8年を取り戻し、再び戦争廃絶の大道を歩み始める、その力強い一歩の年にしていかなければならないと思います。

〈知の歴史〉入門講座

ヘーゲルと〈教養〉の問題

講師・大田 孝太郎さん(広島経済大学教授/哲学)

●日時: 2月21日(土) 午後1時半～5時半ごろ

●場所: 尼崎労働福祉会館 ●参加費: 千円(維持会員五百円)

【ディスカッション】

ジュセリーノらの「予知夢」をどう見るか

伊元 勇（会員、運営委員）

■以下は、平等のゼミ学生の一人がジュセリーノの「予知夢」に関心を持っていることに関連して、伊元氏に手持ちの情報ならびに彼をどう評価しているかについて尋ねた平等のメールに対する返信です。伊元氏の了解を得て掲載します。【編集部】

ジュセリーノについては一応情報は追っかけています。

基本的情報はあるとみなしてお話しますが、たとえばあのインドネシア大津波の警告を、日付入りで在ブラジルインドネシア大使館宛て何通か出したようですが、まさに何も対策はなされず無残にもその日を迎えました。困惑と慙愧の念を持ったであろうその当時の大使が中心となって、現在すでに大規模な地震対策などの役割を果たしているようですが、事実インドネシア政府として教師ジュセリーノへの栄誉の盾などを公式に贈っています。その写真は本に公開されています。警告連絡の事実証明はごく初期を除いて登記所管理されており、そのほとんどはまだ公開されていません。アル・ゴアのノーベル賞受賞は事前に（出版内容記載には間に合わず）たま出版のニラサワさんにより先に公表されていました。アル・ゴアが大統領になると言う予知内容に対しては、私はオバマの応援活動をしているという事実から、それはないなと思いましたが、唯一あるとすればオバマの暗殺という恐ろしい連想がわきました。そしてその可能性を否定できない一方の現実があるようです。

的中率の定義などあいまいさは残りますが、事実としての日付記録からすれば、予知警告という事象の判定はできそうです。ジュセリーノ本の外国への翻訳は日本が初めてだそうで、重要かつ大量の情報対応に、たま出版のニラサワ

さんも丸抱えせず、他の出版社やテレビ局がエンターテイメント扱いで報道しています。仮に彼の話がでっち上げとすると、事実と反している最近の警告ハズレは当然そのとおりと言えますが、ハズレたことをあげつらうだけで、アタリを言及しないバランスを欠いた批判には公平さが欠け、別な意図が透けているように思えます。何かの間違いだとか、偶然だとか言いますが、その証明をしたものはいません。個別の証明だと言って蓋然性のないことを知識人とされる人からも聞きます。スプーン曲げでも手品師が、ほらこんなに簡単に騙せますよ、と言っても何の証明にはなっていない。（昔信頼に足る知人は本当に曲げることができたと直接聞きました）

私がよく言うところの、象の鼻を触ってこれが鼻だと言わずこれが象だと言う謂いです。私はインドネシア大津波の警告を象だと言わず鼻だと言っているつもりです。そしてジュセリーノ本人は予言（預言）者ではない、警告者であると言います。自ら狼が来る、と言い続けます。彼の家族や生活状態が映像でも紹介され、その限りにおいては誰しも彼は善人であろうと感じると思います。しかしジュセリーノの警告の内容があまりにも重大であり、人騒がせであり、社会生活を脅かすとの批判を容易に受ける立場であっては、社会性を帯びる公的機関において、高等政治判断扱いされています。（日本でも国連でも関係者部外秘匿扱い）フセインの居場所情報を提供しても約束を守らなかったCIA

を告訴し、すでに下級審で勝っています。しかし私はジュセリーノが偽預言者と呼ばれても仕方がないと思っています。最近特に日本での警告情報ははずれていると本人が述べ、その理由と批判への覚悟は昔からあるようです。

想いは物質である、という物質論(汎物論)に立てば、祈りが力を持つということになり、事前の災害警告情報に対して忌避する力がある、と思うのは当然のことです。アナウンス効果は何も政治ではありません。結果において当たれば当たりで、当たらなければ当たらないで、様々な理由や言い訳や批判が内容重大さに比例して噴出するのも、また当然のことと思われま。ガセリーノと貶められ、mixiでも同様の批判はかなりなされています。しかし日常生活世界の少なからぬ人間にとっては直接被害が及ぶのを恐れる、が基本的立場であろうと思います。メカニズムの解明などはっきり言ってどうでもよいと言うところでしょう。メカニズムの解明が必要との狭い意味でのアカデミズムの限界であると考えます。アカデミズムへの不信とは、わからないことをわからないと言えない研究者・組織への保身と高慢さに対してであり、研究そのものではないと思われま。素朴であれ緻密であれ、自分と自分に連なる世界の人々への愛を計る人々の善意は、歴史舞台に出ることなくあるいは人知れず連続と続いていて、そのため想い以上の期待と願いを込め有効とされる祈りがさざげられています。

予知夢については実は歴史上も多くの記録はあり、19～20世紀にかけてアメリカのエドガー・ケイシーの膨大な予言もアメリカ国会図書館にマイクロフィルムによる記録保管がされておるほど有名で、感動的な伝記(「川がある」トマス・サグラー、現在邦訳改題)も著わされ、大戦中ホワイトハウスにも呼ばれた、との関係者(投獄を含む苦楽を何十年も共にしてた女性速記者)の生前暴露もあり、アトランティック大学や病院も設立され、研究者による成果も引

き続き現在もなされています。最近の脳科学の進歩は実に様々な知見を増やしていますが、モンロー研究所では真摯な科学者による調査解明が既に40年になり、その成果から例えばターミナルケアにおけるプログラムをキューブラー・ロスと共同開発したり、先に平等さんに述べた私の経験があります。(生涯千回を超えて体外離脱実験をなしたモンローは95年に亡くなり、彼岸から研究所のPCにモンローからのメールが来て！ITCと呼ばれる研究に引き継がれています)体外離脱時での過去と未来の多くの情報が蓄積整理され事実との検証に充てられています。

約一年前京都でジュセリーノ本人と握手をし、私の質問(来る1/25の大阪神戸の大災害の状況如何)にも対して、見せられた映像の詳細は公開された以外には言わない。公開された情報から自ら考え対応するように、とのことでした。たぶん詳細に述べると地域パニックが起こることを憂慮したように私は受け取りました。(当然言質を取られない立場とも)該当地に棲む個人としては避けるべく準備はしますが、結果当たり、ざまあ見ると言うつもりもなく、当たらず笑われても肩をすくめるだけのことでしよう。善意があっても大きい声で主張するつもりはなく、まして啓蒙などとんでもないところです。100%でない偽物だと言う主張に私は与しません。裏打ちするメカニズムは私の追及するところですが、シンクロニティーを受け入れられる文学的感性と哲学的合理性も合わせて必要と思っています。言葉上だけの矛盾にひるみません。理論は作るものです。経験もある実証的であるように努めます。一方、黙示録には多くの偽預言者が現れるともあり、情報を集めるほどに自分自身がその世界に絡まれていく気もしています。自由とは予言でさえ蹴散らしていく意志の力を信じることもかもしれません。そしてこれは信仰と同じ心的構造のように思えます。想いを超える現実はなし、かもしれません。

そしてアカデミズムが受容する余地はますま

す狭くなっているにもかかわらず、世界ではそのような世界や現象を懐疑的ながらも否定しない人たちが逆に増え続けている事実があり、そのようなグローバルズムの情報伝達社会の中から、確信をもって真理探究する若い人たちが出てくるのは私からすれば当然の気がします。スタンフォード大学の濫觴は実はそこから始まっている歴史があり、由来する講座もまだあるそうです。イメージと異なり東洋大学はその逆から始まっているようですが、世界でごく少ないアカデミズムからひと握りの超心理学者達による、メタ分析と言う手法によって現在でもユニ-

クな成果は上げられています。(例えば9・11事件前から世界の緊張は予期した如くかつてないほど高まっていたとする統計分析)先ごろ亡くなったマイケル・クライトンも自叙伝「インナー・トラベル」に非常にまじめにその世界の考察と実践を行っていました。ユングを追い出したフロイトでさえ晩年にはその可能性について示唆しています。鶴見俊輔がソローとカスターネダの著作に、これからの世界の可能性をいち早く示唆したのは卓見と言うべきと私は考えています。(伊元)

大阪哲学学校 2008 年度 (第 14 回) 総会報告

大阪哲学学校運営委員会

大阪哲学学校の第14回総会を、2008年11月8日、尼崎労働福祉会館会議室にて開催いたしました。総会は、会員総数35名のうち委任状提出を含む24名の出席にて成立し、一年間の反省と方針について審議しました。以下、概要を報告いたします。

1 今年度の活動状況と課題

①会員の現状

・会員総数は35名で昨年時より4名減、実出席のほとんどない一般会員の非更新による退会が続いている。電子メールによる案内が主流になったことに加え、「通信」の発行が滞っていることから、会員登録のメリットを感じられなくなっていることが要因として大きいと思われる。

②催しならびに参加者の状況

・前総会以降の催し数は昨年比1回減の14回。隔週開講の原則が一昨年崩れてきている。また、1回ごとの参加者数も10人前後と少なくなっている。

・主体的要因としては、運営委員の活動条件の悪化にともなう企画立案の遅れがある。「生活現
大阪哲学学校通信 No41

場からの問題提起的催し」と「哲学・思想に関わる研究会的催し」の二本柱を具体化する体制づくりや工夫が必要。

▼隔週開催の原則は白紙に戻して、年に2回位少し大きめの講演会など開催したらどうか。受講生の自主的な勉強会などでできればなお良い。

▽原則は原則として置いておき、実状に合わせての開催としたい。大きい催しについては年に1回はやる方向で検討する。

・高齢化・多忙・体調不良などで、運営委員の活動状況が近年極度に厳しくなっている。そこで、会員交流を兼ねた拡大運営委員会を適宜開催し、不足分をカバーしているが、世代交代が当面の最大の課題である。

▼若い人を企画や実務に参加してもらおうような催しを考えてはどうか。年配者はその日は脇役に徹して。

2 各活動分野の状況と個別課題

①広報活動について

・毎日新聞が最近、比較的良く催し蘭に掲載してくれている。また、ホームページを見ての参

加者も少ないがおられる。

・毎回、担当者がチラシを作成してくれているが、十分に活用されていないので、案内メールに添付するなど考える。

・担当者のPC環境が改善されたので、ホームページの刷新についても取りかかる。

②「大阪哲学学校通信」について

・「通信」への投稿が減少し、年3～4回の発行が困難になっている。投稿を呼びかけつつ、少なくとも年1回以上の発行は維持する。

3 財政について

・会員からの年会費・カンパによって、昨年度ひ引き続き収支は黒字を維持できた。財政的な余力がまだ残っている間に、次の一步につながるような活動に取り組む必要がある。

4 今後の企画について

次のような案が出され、一部(*)はすでに実施が決まり、その他は運営委員会ですらに検討する。

・劉燕子さん(『中国低層訪談録』の訳者)の講

演(*実施済み)

・山本校長による哲学学校ゼミナール「デューイ再読・再考」(*)

・捧堅二さんの政治学講座(*)

・「生活と哲学の結合」をシリーズ風に

・松尾匡さん(『はだかの王様の経済学』の著者)の講演

・若い世代が主体となった企画

・国際経済と金融の関係について勉強できるようなもの

・『季報・唯研』マスコミ特集をベースにしたシンポジウム(21世紀研究会などとの共催)

・その他、会員やスタッフが報告者になった催し

5 第14期運営委員会体制

・校長(兼参与): 山本晴義、参与: 木村倫幸、笹田利光、田畑 稔

・運営委員: 伊元 勇、中村 徹、平等文博(委員長)、藤田隆正、山口 協

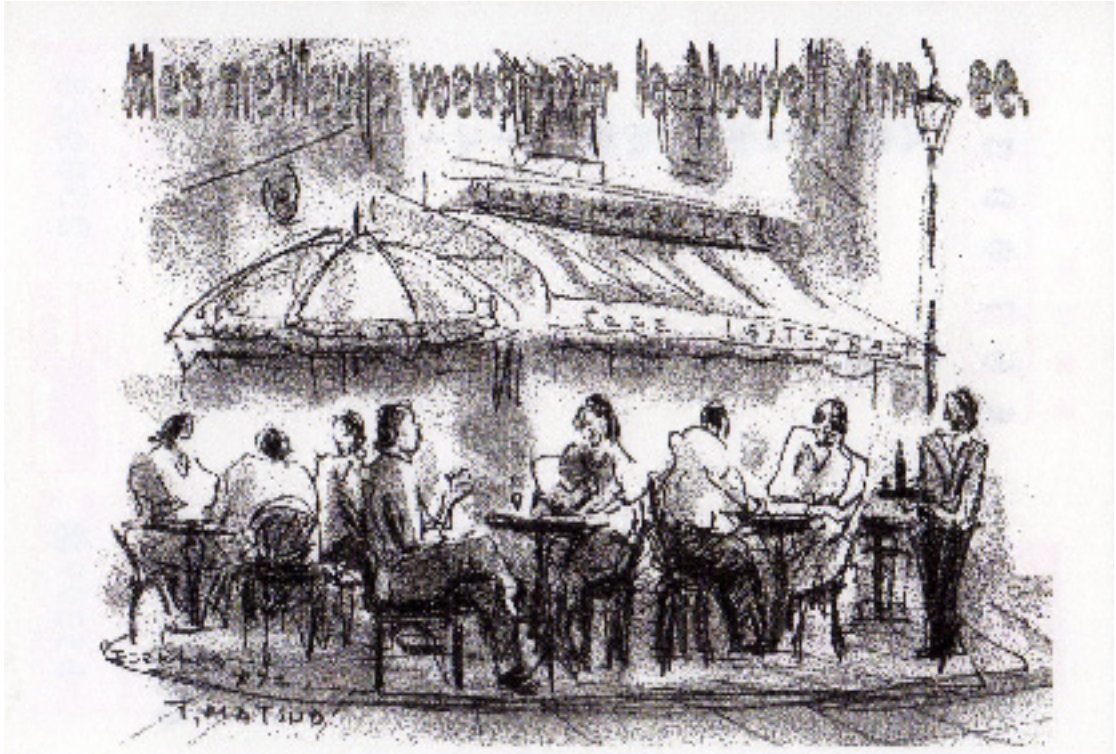


高根英博 作

薨れざる人々 1

『ローザ・ルクセンブルク』

本校の運営委員を長く務めてくださった高根英博さんの表記作品が、このたび同時代社から刊行されました(定価1300円+税)。ローザ・ルクセンブルク国際協会代表で中央大学名誉教授の伊藤成彦さんが、「私が高根さんのローザ・ルクセンブルクをユニークマンガと呼ぶのは、ローザ・ルクセンブルクの優しさと鋭さという両面からなる独特な雰囲気を表しているからです。そういうマンガが日本で出版されるということは、未来の社会主義に通じる芽が日本から芽生える可能性を示すこととして、楽しく、嬉しいことではないでしょうか」と推薦の言葉を寄せておられます。ぜひご購入ください。



※会員の松尾猛省さんからいただいた年賀状です

大阪哲学学校活動日誌 (「通信」40号発行以降)

2008. 1.26. 「大阪哲学学校通信」第40号発行
 1.26. 新年・会員参加者交流会
 2. 9. 「言葉・信念・コミュニケーションの政治学—天皇制と共産主義運動の分析を例に」
 講師・捧 堅二
 2.23. 〈知の歴史〉入門講座・ヘーゲル『精神現象学』を読む..... 講師・田畑 稔
 第7回「ストア主義とスケプシス主義」
 3. 8. 同 第8回「不幸な意識」
 3.22. 同 第9回「先取りの読書〈絶対知〉」
 4.19. 〈2008年開講講演〉..... 講師・山本晴義
 「日本の戦後政治とグラムシ——〈受動革命〉の展開過程」(第1回)
 5.10. 同 (第2回)
 7. 5. 「ヒトはいかなる星のもとに生きるのか——アジアの現状と日本の未来」(その1)
 講師・沖浦和光
 9. 6. 拡大「納涼」運営委員会
 10.11. 「食の不安をどう考える?——偽装・高騰・毒混入」 講師・山口 協
 10.25. 「アムステルダム五〇日——国際社会史研究所での調査を中心に」
 講師・田畑 稔
 11. 8. 大阪哲学学校2008年度(第14回)総会
 11.22. 「今、メディアとジャーナリズムは——失われた言論の自由と精神」
 講師・森 潤
 12.13. 「中国のどん底の世界——中華ピラミッド最底辺の声」 講師・劉 燕子

宇宙樹

船曳 秀隆 (参加者)

地球儀見る元気もなくなった 僕

あと少し生きている者のために

土を集めることに憧れた窓が

次第に開かれていく

近づいてくる

赤子の匂い

植物園の死も

輝いてくる

人間は はじまり続ける

僕も はじまり続ける

やがて窓から出てくる赤子

土に宇宙の種を埋めてみた

アダムとイブの 開けた窓を通り抜け

地球に埋められた懐中電灯を手に

振り返らない光 の中を行く

土の感情に触れるように

風を読みながら恋をしていたんだ

炎に溶けていく光は

土へ叫ぶたびに

自由より

宇宙の頬を知る

言葉を覚えぬ

赤子の涙は

宇宙が宿っているようで

産声と共に

赤子から産まれてくる赤子は 宇宙の大人

魂を残している

瘦せたけれど強い枝のような手に

曳かれて 水に溶けると

地球水と名づけた赤子の夢が始まる

希望も最初は赤子

神様も最初は赤子

この小さすぎる窓をこわし

いつしか 宇宙樹が芽吹く

終わらない土を耕す音

水を撒く波紋 渡り巡る輪 朝の霧

それらはすべて 宇宙の肌

【自己紹介と近況報告】

お久しぶりです。船曳 秀隆ふなびきひでたかです。

詩人の青木はるみ先生の下で、十年間、現代詩を学んでいます。関西詩人協会所属。29歳。梅田在住。

二十一年から二十四年まで立命館大学のサークルAFPの機関誌airmookに寄稿、二十六年から二十七年まで雑誌「詩学」に投稿、二十七年から二十八年まで雑誌「現代詩手帖」に投稿をしていました。

好きな詩人等は、宮沢賢治、宗左近、パウエルツエラン、天沢退二郎、与謝野晶子、杜甫、庄子。

趣味は、バスケット、ストリートダンス、陸上長距離(二十五年「ABC万国博マラソン大会2005」に出場、完走等)、ドラム、美術、芝居(二十三年まで劇団東俳に所属)。

最近は、特に能楽や太極拳に興味があります。

「やすいゆたかの部屋」に作品掲載。アドレスはhttp://www.7a.biglobe.ne.jp/~yasui_yutaka/

今後とも、宜しく願います。

エラスムス『痴愚神礼賛』のパロディー 舞台裏にて

やすい ゆたか（会員、講師）

はじめての主役ふられて張り切るも

痴愚女神ではちょっと惨めか

榊周次は三輪智子を例の休憩室に連れて行った。「三輪さん、今度はひとつ主役を引き受けてもらおうと思ってね。」智子はうれしそうに「やっと回ってきたの。でも電腦のバーチャルリアリティだから、突然成り切ってしまうというのじゃなかったかしら。」「それはそうなのだけれど、今度の役はある程度自分の役柄を理解してもらっていたほうがいいから。」

「女性が主役というのだから、クレオパトラとか楊貴妃とか小野小町とかでしょう。『花の色はうつりにけりないたずらに吾が身世に経るながめせしまに』なんて人生を感じさせ、人間論としてもいいですね。」

「いや、今度のは美女ものじゃないんだ。」「それじゃあ則天武后とか西太后など恐ろしい役柄だったり、そういう役は私みたいな清純な少女ではとてもこなせません。」「いや歴史物でもないんだ。今度は君に女神を演じてもらおうと思ってね。」

少し恥ずかしそうな顔をして智子は言った。「あら先生、私ってそんなに神秘的な美しさで先生を惹きつけているのかしら？」

榊は首をふった。「もちろん、そうだけれど、今回はアフロディテみたいな美の女神じゃなくて、もっと人間性豊かなモリアつまり痴愚の女

神なんだ。」智子はドテツと前のめりになった。

「ああ、エラスムスの『痴愚神礼讃』のモリアね。それはちょっと無理じゃない？ 私いつも利発そうな顔だとか、キリッとした顔だとか言われているから。痴愚女神だったらあまり緊張感のある顔では無理でしょう。」

「たしかに三輪さんはいつも凛々しい顔をされているけれど、それは緊張感のない顔だと馬鹿にされたり、だらしがないと思われるという警戒心があるからなんだ。人間いつでも緊張して、きりっとしていると、精神衛生上問題が起りやすい。たまにはリラックスしたいという意識をずっと意識下に押し込んでしまっているのだ。だからモリア役をやって、精神を弛緩させることはとっても大切なんだ。」

「あのモリアのしゃべっていることは、全然馬鹿なことじゃなくて、とても機知に富んでいるし、センスのいいことでしょう。そういう賢いことを痴愚神だからといってパーみたいな顔して話すなんてとてもできません。」

「そこまで分かっていたら、後は気軽に自分の思いつくままに話せばいいんだ。要するに、社会にはびこる特権階級の独善的で身勝手な痴愚狂乱ぶりを暴露する。それに人間の本质は理知であるけれど、その理知は神や自然の摂理に比べたら痴愚に他ならないことを確認する。その上で痴愚こそ人間が人間らしく生きていくのに相応しい人間の本质であるとして、様々な痴愚

の効用を説明してくれればいいんだ。」

「ええ、そんな気の利いた話次から次とできるかしら、だれか合いの手をいれてくれるのでしょうか。」「そうだね一人芝居みたいのでいきたいのだけれど、時折、エラスムス役にして上村陽一君を登場させることにしよう。」

吉本演芸場にて

痴愚女神現れ出でたるそれだけで

笑い転げてみんな幸せ

司会 それでは今日は特別に今や人気絶好調、天から天下ったか、地から湧き出したか痴愚の女神モリア様のご登場です。

アホの坂田が出てくる。「アホの坂田、アホの坂田」と歌いながら登場で、笑いの渦が起こる。「ハイ、アホの坂田です。え、わたいのことでっしゃる。違いまんのか。ほな失礼します」とまた歌いながら退場。

ついで花子が登場。「私のお呼びやるとマネージャーがいうもんやから、なに？痴愚女神モリアやて、この私が、そんなむつかしいこと分かりまへん」と退場。

いよいよ奇想天外、奇妙奇天烈な衣裳で三輪智子が登場。満場が笑い転げる。

「あんたら、なに笑ろてんねん。まだなんにも言うてへんがな。アホちゃーう」と智子は頭の後ろから右手をパーにしてジェスチャーした。するとアホの坂田が袖から首を出し、「アホちゃいまんねん、パーでんねん」と合いの手を入れた。会場腹を抱えて笑う。

お待たせー、アホそのものでっせー、まあアホの純粹培養でんがな、すべてのアホ・馬

鹿・間抜けの根源やね、ハーイ痴愚の女神様モリア、モリア、モリア（会場も一緒に連呼し始め、テンションが高くなっていく）モリア………………。おおきに、おおきにストップ、ストップストップ、ストップいうとんやるこのスッポン、ボケナス、かぼちゃ！あかん、あかん年寄り興奮さしたら粟ふいて死んでしまうがな。

馬鹿喜劇

馬鹿を見て笑ろてる自分に馬鹿を見る

馬鹿にこそある人のぬくもり

熟年のおばちゃんたちが多いので、馬鹿の本場大阪での実演やさかい、馬鹿喜劇の話から入りまっさ。四十年も前やけど、わてはうら若い少女にみえまっけど、アホは歳とらんといいまっしゃる、女神やさかいほんまはずっと大昔からいてまんねん。

松竹新喜劇で藤山寛美の当たり役で阿呆の若旦那や若君役がありましたな。父親役の渋谷天外にとっては馬鹿息子がかわいいがな。馬鹿息子は少しもけれん味がなく、裏表があらへん。素直な心で感じたままに口に出し、行動しよる。大人の世界のごまかしや欺瞞が通じまへん。それで陋習や偏見で押し潰されてた人情が、馬鹿息子の活躍で取り戻されるというのが筋立てになってましたな。なんとなくユーモラスで温かい馬鹿(若)旦那の登場で、観客の気持ちは軽うなって、なんとなく楽しくなったもんです。それで馬鹿(若)旦那の物真似が流行りました。

丁度同じ頃やった思うねんけど、吉本興業でも『番頭はんと丁稚どん』という頭の足りない丁稚を主人公にした、ドタバタのコメディが大うけでした。大村昆扮する馬鹿の丁稚は馬鹿やさけ要領が悪い。いつも失敗ばかりして叱られたり苛められたりしてましたなあ。観客はその馬鹿さ加減に腹抱えて、笑い転げよったもんや。人間誰もおのれの馬鹿さ加減に自分が嫌

になってるもんなんや。だから自分より馬鹿なことをする人間を目の前にすると気持ちが楽になり、優越感からなんとう嬉しなってくるんやね。それも自分と同程度の馬鹿ではあかん、それやったら自己嫌悪が募ります。そやから、徹底した馬鹿の方が受けまんねん。ほいでコメディでは破茶滅茶な馬鹿が登場しましたなあ。

ほんでも、アホやから正直で素直です。決して人を憎んだり恨んだり、人に対して悪意をもったりできまへんのや。そやさかい馬鹿は馬鹿正直にしか生きられなへんから、馬鹿を馬鹿にしていた人々のいやらしさをはっきり見せ付けたんですわ。脇役たちは、一番大切なものを見失っていた自分達の馬鹿さ加減を思い知ったということです。

藤山寛美や大村昆なんかの馬鹿喜劇に登場する主人公の馬鹿は、ひとまずは、観客達が自分達の馬鹿さ加減を自分の外に出して、そのことによって自分達を馬鹿ではない人間としての優越感を獲得するための道化ですねん。しかし、馬鹿を馬鹿して終わりでは、人から馬鹿にされることに普段から最も疵つけられている観客達にすれば、反って後ろめたい気持ちになってしまいまっしゃる、後味が悪いもんでっせ。ほんで観客達はこう考えまんのや。「あの馬鹿は程度の差こそあれ自分自身の馬鹿でもあり、それを笑っている自分は、自分自身を笑い者にしているのだ」と。

そうになったら、今度は馬鹿に限りない共感を寄せますねん。そして、あの馬鹿さ加減は実は感じたままに正直に行動する余りに我を忘れ、ブレーキがきかんようになった状態やと受け止めよるんですわ。そこに計算のない真実の気持ちの現われを感じますんや。馬鹿の行動は目茶目茶やけど、破綻せんために不純になった正常な常識的行動には見られない大切な魂の息遣いがありまんのや。不純な行動というのは、他に目

的があり、心はそこに行ってしまうのに、その手段として必要なために自分の気持ちを誤魔化している場合にも見られます。そやさかい馬鹿は人間の本来の姿を表現することになりまんのや。

人間、馬鹿なことやったら、破綻してまいますが、そうかいうて馬鹿なことをやらへんようにほんまの気持ちに逆らうてると、自分の一番大事なものを見失ってしまいますんや。そやから馬鹿喜劇の馬鹿は人間をまっとうな姿に立ち戻らせるヒーローですねん、馬鹿天使なんや。それで馬鹿役が登場すると観客は和やかで暖かい気持ちになれるし、何か幸せな気分になることができるのです。(拍手)

エラスムスと掛け合い

エラスムス平和の訴え引っさげて

モリアにまみえる大阪の町

休憩のあと上村 陽一のエラスムスとのかけあい漫才である。陽一が椅子に腰掛けて、居眠りしていると、モリアが登場するという設定だ。

モリア「エラスムスさん、こんなとこで笑福亭仁鶴師匠みたいにエラはって寝っていると、エライ風邪ひくがな。」

エラスムス「ウワー、こてこての大阪のおばちゃんやんか、あんたいっただれや？」

モリア「なんと仰るうさぎさん。うちにあんたで、あんたがうち、痴愚の女神モリアやんか。」

エラ「モリアはんに一心同体みたいに言われても、あまりうれしないな。」

モリア「それにしても『十六世紀はエラスムスの世紀』になるやろいわれて、ルターの宗教改革運動でそうならへんかったあんたが、なんで二十一世紀の大阪にタイムスリップしたん？」

エラ「わしは平和主義者やねん。『平和の訴え』という平和の女神パックスの訴えを書いてるんや、ほいで二十一世紀の日本の『九条の会』から講演の依頼がきたんやな。なんでも日本は一九四六年に施行された戦争放棄、戦力不保持、交戦権否認を定めた『憲法第九条』を変えてもたろという動きがごつつうなって、そいであわててタイムスリップしてきたというようなわけやがな。モリアはんはどうして二十一世紀の大阪なんや？」

モリア「ここが一番モリアにとって居心地がええの。みんなあけっぴるげで馬鹿丸出しという感じやんか。まあ『憲法第九条』ほど立派で貴重なモリア(馬鹿)な条文もないわな。これがなくなるのはモリアにとってもサビシーから大いに頑張ってるや。」

馬鹿になり国家非武装選べるや

それとも利口に改憲すべしや

エラ「わしはすごい人類の平和へのかたまりのように思うとんやけど。ほやかてハルマゲドン(最終戦争)が何時起こっても不思議やないほど人類の武器は進化しとうやる、核兵器や生物・毒ガス兵器が小型化しよるやん、そいであう作れるようになってるやん。何時までも国家が武装して国を守ることやとったんでは、ほんまにハルマゲドンになってしまうで、このへんで思い切って、国の軍隊いうもんをやめてもて、地球規模の集団安全保障の機構にそういう兵器を集めてないようにせなあかんのや。『第九条』はその第一歩やな。」

モリア「だいたい武器を持って戦うというのがアホな証拠やね。武器がどんどん進歩すれば人類はおだぶつになってしまうんやから。」

エラ「ほんなら、武器を持たへんちゅう『第九条』はなかなかお利口やおまへんか」

モリア「ほんまに守れるんやったらね、それやったらお利口やけど、実際は世界有数の軍事力を備えた自衛隊を持ってるやん。ほんなら『第九条』なんぞはインチキやんか、改定すんのが当たりまえなんよ。それをせっかく立派な条文やから残したいというんが、これまでの国民の姿勢なんやね。そこが馬鹿なんよ。残したいなら自衛隊もなくさなあかん。ほんでも、それはいやなんやろ。それを解釈だけかってに変えてもて、戦力ももてるし、自衛のためなら戦ってもいいなんていうことにしたんよ。それやったら他の国も同じなんよ、どこだって侵略できる軍隊なんて認めてないわけよ。だから『第九条』の意味はないわけや。」

エラ「そしたらモリアはんは改憲に賛成してはんねんね。」

モリア「馬鹿やね。私は軍隊なんて馬鹿なものはさっさとなくせいう立場やさかい、改憲には反対なんよ。」

エラ「侵略されたらどうすんのや。」

モリア「非武装で世界平和に貢献し、平和で豊かな国をつくって途上国を援助している国を侵略できるやろか。もし侵略されても、戦わへんかったら戦闘にならへんやんか、無血占領するわけやろ。そしたら非暴力での抵抗が続くし、世界から侵略者は非難を浴びるわな、経済制裁とかされるので、どうして占領をされるいうんや。もし無差別の大虐殺でもさらしよったら、それこそいつらは、支配が難しなるやんか。それにひょっとして民族皆殺しにされるとしよ、そしたら恒久平和のための尊い犠牲として人類史に記録されることになるわな。ああ日本人は

侵略され、皆殺しになる危険をあえて冒しても、人類が武器を捨てる決断を促すために率先して非武装国を作った偉大な民族だ。彼らは滅ぼされたという意味では、確かに馬鹿やった、大馬鹿者やった、そやけど人類の恒久平和には彼らのような大馬鹿者が必要やったんや、とえらいほめられることになるんや」

エラ「でも日本人はそこまで偉大じゃないから無理やわな。」

モリア「そうやね、時には人間、馬鹿に成り切ることも必要なんや。これは痴愚女神モリアの意見やから、心して聞いとぎや。」

エラ「ウーム、馬鹿の意見に従うべきか、これまでどおり、ごまかしと中途半端でいくか。それとも小利口に改憲してしまうか、日本人も正念場やな。ついでに今、焦点になっている靖国神社参拝問題についてモリアはんのご意見はどうでっか。」

霊ありて社に集まる信仰を
総理の名もてするはイケン(違憲)や

帝国の支配侵略犠牲者の
御霊祀らず戦犯祀るな

モリア「馬鹿に意見を訊くやなんて、なかなか見上げた馬鹿ね、あんたも。だいたい靖国神社というのが馬鹿の見本やろ。英霊を祀るなんて発想が馬鹿やんか。なんで戦争で死んだ人の霊が靖国神社に行くわけ。だれが霊なんて見たんよ。勝手に祀る人が自分の気持ちを慰めるために死んだら霊が残るなんて決めつけているだけやろ。それやったら靖国神社でのうてもべつにええやん、みんな心の中で戦争犠牲者に感謝していればええんよ。わざわざA級戦犯を神として合祀している神社に参るやなんて、A級戦犯

を恨んでいる国の人々が反撥するわな、日本は反省してへんと思われて当然なんよ。だれをどう祀ろうが日本の勝手やいうんやったら、相手の国にそんな無神経な国とは付き合いたくないといわれてもしようないわな。まあ慰霊施設を作るんやったら、先ず日本が侵略して被害を与えた人々の霊を優先的に祀るのが正しいよ。そうせへんかったら、いつまでも日本への敵意は解けへんにきまってるわ。」

野の花は華麗に装い咲きたるを
何の不足もあるまじものを

エラ「他にもモリアはんからみはったら、現代社会はまだまだ痴愚狂乱に満ちていることやるね。」

モリア「そらそやろ、人間自体が痴愚狂乱のかたまりやがな。なんも文明なんかいらんのよ。野の花を見てみ、きれいに咲いてるやん。それでなんも不足あらへんやんか。文明なんか作るよって、欲が膨らんで不足だらけになったんやんな、それで森の木を切って砂漠にしてもたり、他の動物を絶滅してしもたりするんやで。そいでいっぱい物を燃やすさけ、地球が汚れるし、暑つなっていくんやがな。大昔、三種類の微生物しかこの世におらへんかった時代に、この微生物同士のバランスが崩れてメタンガスがごつつう出て、地球がいったんあったかなった後で、太陽の光がとどかんようになって、地球全体がなんと五千メートルの高さの氷に覆われたことがおまんねんやわ。微生物でもこれだけの变化をもたらしたんやさかい、人間の産業活動が地球にどんな大異変を与えているかよう反省せなあきまへんで。」

便利さを求めて築きし文明に
首絞められてもがき苦しむ

エラ「あんたほんまにモリアかいな、えらい賢いこといわはるな。似合わん似合わん。」

モリア「わしはこれでも神さんやで、神さんから見たら人間の知恵がそもそも馬鹿やゆうこっちゃ、便利なもんつくっては、それでよけいに不便になってしもうとる。自分で自分の首を絞めとるんや。」

いまさらに原始の昔に帰れねど

命の循環保つ工夫を

エラ「そいでもいまさらはじめ人間ギヤートルズみたいに原始生活に戻れんわな。」

モリア「原始生活に戻れんでも、もっと自然に帰りなはれ。それにそう開き直るんやのうて、先ず反省せなあかんわな。それでどうしたら大いなる生命の循環と共生の中に人間の生活を調和させられるのか、いろいろ工夫せなあきまへん。そこに頭使わな。文明が生み出した科学技術いうもんをそのために役立てなはれいうとるや。地球を汚したり、温暖化させることに使わんとな。」

エラ「それにしてもひところは日本は二一世紀には世界の中心になるといわれてましたやろ、それが不況が長引いて、だんだん落ち込んでいってるようですね。なんとか持ち直す方法はおまへんのか」

豊かなる国に生まれし若者は

怠惰になずむハングリー欠け

モリア「まあ日本、日本言うてんのは了見が狭いわな。どこが中心やかてええわけやんか。ようするに世界がなかようできてお互いに繁栄できればええとせな。日本が繁栄を続けよ思たら、戦後の日本みたいに若いもんがよう働き、よう

勉強するということがないとな。今の六十代の連中まではわりと頑張りよったさかい、一時、日本が世界をリードするいうとこまでいったんやけど、経済成長が済んでから教育を受けた連中は恵まれすぎて、ハングリー精神に欠けてたわな。そのかわり七十年代以降は中国や東南アジアの若いもんが頑張りよった。今でも日本の学生は勉強せんようになった言われとるやん。それで落ち込み防げいうても土台無理ちゃう。」

生まれ来る子の数減りぬその分を

招き入れてそ人手保たむ

エラ「アメリカなんかは落ち込んでいくいわれたけど盛り返してますわな」

モリア「アメリカは移民を受け入れてますやん。どんどん世界から若いやる気のある連中が入ってきて、補填していくさけ、繁栄が続けられるんや。日本かて外国から移民や出稼ぎを受け入れたらええんや。そうでもせんと経済落ち込んで、財政赤字で増税なんてやってると、それでまた経済が冷え込んで、悪循環になっていく。」

財政の赤字膨らむそれゆえに

増税すれば赤字へるかは

エラ「日本人は外国人が増えると犯罪がふえるので、それが怖いんやろな。それにしても財政赤字やさかい、増税するしかないいうてえげつない規模のサラリーマン増税や消費税増税が計画されてまん、モリアはんからみたらどうでか？」

増税は所得吸い上げ経済を

停滞させて赤字まさずや

モリア「あきれ果てたモリアやね。官僚や有識者いうのんは頭の中が空っぽなんやろな。財政

が赤字やから増税したらええという発想が安易やわな。そら幼稚園以下でっせ。」

エラ「赤字になった原因をはっきりさして、そこから考えないかんいうことでっしゃる。そもそも財政ちゅうもんは、企業と家計だけでは景気変動がはげすぎて資本主義経済が崩壊してまうから、それを調整するためにありまんねんや。それと、貧富の格差を所得再分配で緩和して社会の安定をはからんならんからや。その財政の規模が大きなりすぎたら、民間経済はもたへんわ。増税のやりすぎは自殺行為でんな。」

統合の時代始まる経済は

一国単位時代遅れや

モリア「アンタ十六世紀から来た割には、近代国家のことよう知ってるな。榊せんせの授業うけてんのちゃうか。そやねん、増税で景気冷やしてもたら、税収は余計に落ち込むさけ、増税やっても財政収入は減ってしまうんや。そもそも財政赤字が膨れ上がるというのは財政がきちんと機能でけへんようになったからや。二十世紀末からの経済の停滞は、国民経済が一国の財政で調整できんようになったいうこっちゃ。中国なんかからものげっつい安い商品が入ってくるから国内生産が減んのは当然や。これは東アジア市場全体で調整せなあかん問題なんや。財政を使うんやったら、よその国の低賃金に対抗できるほど技術水準を上げたり、労働力の質を向上したりするこっちな。つまりは学校教育のレベルアップや。それから外国人労働者をどんどん増やすしかないな。」

エラ「ちゅうことは時代が、一国単位の近代からグローバル統合の時代に入ってきてんのに、官僚や学者連中はいまだに一国単位の発想しかでけへんいうことでんな。けっこうパーなんや。」

人間の理性は痴愚の現われか、

苦しみの因生み出すばかりや

エラ「ところでモリアはんからみたら、この世のすべては痴愚のかたまりということになるそうやけど、そしたら理性や知恵というものはおまへんのか？」

モリア「アンタもやっぱり痴愚やな。理性や知恵と痴愚が別にあるんやのうて、理性や知恵が痴愚の現れいうことやんか、別に自然のままに生きてたらええのにしょうむないもんばかり作り出して、それで自分で苦しんでんのや。理性が作り出した経済学に捉われて、大增税案がでてくるんや。ともかく人間の理性はろくなもんつくらんで、その最たるもんが貨幣やな。これにとりつかれたら最後、一生をこれのために捧げつくしよる。これのためやったら寝るのも惜しいそうや。あんまりこれが好きなもんやから、これをつかうのが惜しいいうて、通帳眺めるだけで満足して、結局死ぬまでつかわなんだ奴もいるそうやで。つかわへんかったら意味ないんやけどな。純粹馬鹿やる。」

エラ「土地・建物や宝石・絵画・骨董品を収集している連中も似たようなもんや。ただっぴろい家に住んだって、掃除からなにか自分ではでけへんから人やとってせんなんのやけど、広すぎて不便なだけやがな。家族四、五人やったら五つか六つ部屋があったらそれで十分贅沢やがな。いや個室なんかないほうが一人で閉じこもられへんから。かえって孤独にならんでええかもしれんな。個室があるよって家族の会話のうなってしまう家も多いそうや。ふだん使わん宝石や絵画を持ってたって、それがいったいなんやちゅうねん。みんながいつでも見れる場所に寄付してんか、ほんならみんな楽しめるのに、独り占めにして自分だけ喜んどおる、根性ババ色や。」

モリア「そらアホやで、たしかに。」

エラ「モリアはん、あんたはそうやって金持ちや権力者の痴愚をこき下ろしはるけど、痴愚そのものは素晴らしいもんやと、痴愚を大いに賛美してはるらしいね。」

モリア「自分の痴愚に気づかんと、自分だけ正しいとおもとる馬鹿が権力者に多いやんか、自分は核兵器ぎょうさん持っというて、ちっちゃな国が一つでも持っというたらと思つたら、ならず者呼ばわりしよる大統領がおるやんか、あれは独善の典型やな。自分とこ民主的な国で、平和を愛好してるから侵略者から平和を守るために核兵器でもなんでも持つのは正義やけど、相手の国は核兵器持ったらほんまに侵略や戦争に使うから持たしたらあかん、持ったら核兵器をぶち込むぞと脅しよるねん。」

エラ「よう考えたら、実戦で核兵器使いよったんは、その国だけやったりして。あれは戦争を早よ終わらして、本土決戦にならんですだから、相手の国民を救ったよい原爆やったという理屈やな。ようするに良い木には良い実がなり、悪い木には悪い実がなるという理屈で、自分が正しいことが前提になってしもてる。そしたら少々自分らが悪いことしても、動機は正義のためやったですませられるんや。」

モリア「そういう独善的な馬鹿は、大いに批判しとかなあかんけど、人間の本性である馬鹿は、人間のありのままの姿やから、馬鹿丸出しで生きたらええわけなんよ。」

本源の痴愚に帰りてまぐわいぬ、
この世のすべて痴愚が生みしか

エラ「ほおーどんな馬鹿がええ馬鹿何やる」

モリア「ほらだれでも子供を作るための行為をするときは、賢そうな顔やしかめっ面はやめて、馬鹿丸出しの本来の顔に戻るやんか。我を忘れて忘我の境地でおこなわなあかんのや。神々かてそうやで、そやからこの世界にあるすべてのものは痴愚から生まれたというこっちゃん。」

子育てに若さと別嬪吸い取られ
それで幸せ見上げたモリア

エラ「子供を生んだり、育てたりする母親の営みはどうでっか、なかなか偉いんやおまへんか。」

モリア「それがモリアなんよ。そやかて出産ちゅうのはめっちゃめっちゃ痛いんやで、それが赤んぼの顔みるとすぐ忘れてもて、もう一人生みたいなんてなるんやから、アホですわな。それに一所懸命子育てして、自分の若さも別嬪もみんな子供に吸い取られてしまよるのに、それが生きがいやとか、幸せやとかしゃーしゃーというんやから、見上げたモリアやわな。」

痴愚ゆえに可愛いものよ子供らは、
悪態つかずに笑顔ふりまく

エラ「まあ、あかんぼいうのは可愛いもんでんな。孫ができたならメロメロになるいうけど、子供を育てることほどやりの有ることはないのちやいまっか。」

モリア「子供もモリア(痴愚)のお陰で可愛いんやで、はじめはなんも悪いこといわへんやろ、ほいで可愛い、はじめから知恵があつて、天上天下唯我独尊なんかぬかしよつたら、どついたるか思うで。」

エラ「そういやあ、女もあまり賢い女は可愛げがないわな。今はフェミニズムの時代やさけ、

今のはオフレコやけど。賢い女にはまた別の魅力はあるけど。(あのわては中世の人間ださけい、女性差別やゆうて怒らんといてな、作者の考えとは違います、念のため。)

モリア「まああんまりない知恵絞って賢そうにしてたら、脂気が抜けてもてかさかさになってしまいうな。女の肌が男よりずっと柔らかですべすべしてんのは、男みたいに仕事で神経すり減らしてへんからや。でもこれからは女も男とおんなじ様に働らかなあかん時代やさかい、女の肌も荒れるやろな。それに女が男より頭が悪いなんて迷信なんよ。どんどん社会に進出すればええんよ。」

化粧品のとつまくなし塗りたくり、
肌が荒れぬかそれが心配

エラ「そーいや近頃の女は、一部やろけど仕事中であろうが、授業中であろうが、電車のなかでも四六時中化粧しまくってるけど、それだけない知恵つかって肌荒れしてるからやろか？」

モリア「あれは馬鹿女がしてるのよ。塗れば塗るほど醜いのに、少しでもましにしようと思ふな努力するから、ますます肌は荒れるし、汚くなるばっか。」

エラ「ところで政治で立派な国づくりに成功したり。世界平和を前進させたり、大きな事業をやりとげたり、学問で偉大な業績をあげたり、そういう場合にはやっぱり痴愚は邪魔こそすれ、役には立ちまへんやろ。」

シンプルな馬鹿でも分かる原理こそ
成就の鍵ぞビッグな仕事

モリア「なに聴いとんねん。このアホウ。人間ごっついことやろと思うたら、それに馬鹿になって大阪哲学学校通信 No41

没頭せなでけへんやぜ、それにものごとを複雑に考えたらこんがらがって収拾がつかんようになるよって、できるだけシンプルに一つのテーマに絞り込んで、それを原理にして情熱を傾けなあかんのや。馬鹿の一つ覚えが最高なんや。その方が、人に伝わるし、心を打つもんなんや。」

幻想とうぬぼれなしで生きられぬ、
棺桶までも夢を忘れじ

エラ「そいでも、何事か成し遂げるためには現実をリアルに見なでけへんわな。幻想にとりつかれてたら、へまばっかりしてすぐに破綻してしまうやんか。」

モリア「現実をリアルに捉えてるつもりがそれが幻想やったことがようあるもんや。逆に夢や幻から出発して、何度も挫折しながら、夢を失わんと追い続けてたら、そこに口マンのあるすごい仕事ができることもあるんや。それにあんまり幻想がなさ過ぎるのも困るで、自分自身や自分の身内や友達に幻想をもってるから、お互いに尊重し合い、助け合って充実した人生が送れるんやんか。もうとっくに過去の人、終わってると思われた人がいつまでも自分を信じて最後の土壇場で見事な花を咲かせることもあるんや。これは幻想力やな。」

エラ「自分の力に合わんことやっても、うまくいかんわな。うぬぼれほどこわいもんはない。身の程知らずの馬鹿では使いもんにならんやろな？」

モリア「なにいうとんねん。うぬぼれが大事やねんぞ。人間みんな死ぬに決まってるやろ、ほんでもほんまに死ぬ思もたら怖うてなんもできんようになるらしいんや、それがだれでも自分だけは死ねへんと心のどこかで思い込んでるんや。たとえ死んでも生まれ変わるとか、続きが

あると信じてんのや。つまり死んでもまだ生きてると思てる。これもうぬぼれの一種やがな、それが支えに生きてられるそうや。それに同一視いうて、自分が駄目な人間や思うても、自分の家族や親戚や友達や友達の友達が偉いやっちゃとなったら。それだけでうれしい気持ちになるもんなんや。つまりうぬぼれの根拠を自分と同一視できる誰かに求めるわけや。アイドルとミーハー、阪神タイガースとファンの関係でもそれは言える。自分は、会社首になり、妻子に逃げられた時でも、親が死んだときでも一滴もなみだこぼせへんかったのに、阪神タイガースが優勝した時は一升瓶抱えて、一晩中泣き明かした男がぎょうさんいたらしいで。辛うじて、人生に花がある、まだ救いがあるのは、同一視した相手のことにすらうぬぼれられるという人間のモリアのお陰なんや。」

老いらくの恋も元気のものなれば

責めたまふまじ見苦しいなど

エラ「そいでも、還暦すぎのええ年齢こいていつまでも若いつもりで、女子中学生の尻を追いかけたり、婆さんが若いツバメを捕まえたおもて、ベタベタ厚化粧しとるん見ると腹たってけえへんか？気持ち悪うてゲエ出るで。」

モリア「そこがモリアの偉大なとこやがな。これから高齢社会やゆうのに年寄りがそれぐらいの元気がのうてどうすんじゃ。他人はずごい年寄りに見えても自分は実際より二十歳は若こう思とるらしいな。年寄りは自分はもうあかんと思うさかい落ち込んで寝たきりになってまうんや。そこがモリアの力で幻想力を特別に年寄りには強ようしてるから、まだまだいけるいうて七十台八十台の老人たちが老人ホームなんかで老いらくの恋を楽しんでるそうやないか、その方が寝たきりで十年以上家族や施設におむつかえさせるよりよっぽど幸せやないか。本人にも

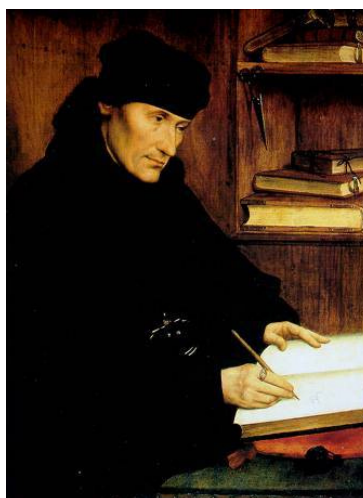
家族にも社会にとっても。」

一介の大工の息子が人類の

罪贖うと言うはモリアか

エラ「もう時間ぎれやさかい、また書き直してもらうとして、最後に信仰についてモリアの役割についてしゃべってんか。」

モリア「信仰はアンタの専門やんか。ギリシア人に言わしたらキリスト教徒の信仰は痴愚の見本みたいなもんや。そやかて大工の息子が人類のために身代わりに磔にされて死んだからいうて、それでなんで、それが全人類の罪をチャラにつまりなかったことにして、あがなえるねんということや。今まで世のため人のために尽くしたために弾圧で殺された人はぎょうさんいてはるやる。それでもだれも全人類の罪はチャラにでけへんかった。なんでナザレ村の大工の息子がそんなことできんねん。アホちゃうかと馬鹿にされたんや。ほいでもよう考えたら、人類が救われんのは、そんなモリアなことを信じることによってしかあらへんの違うかということやねん。しゃあからキリスト教ちゅうのはみんなが独善的な知を捨てて素直に信仰の痴愚に帰ることで救われるとする痴愚宗教なんや。」



「カリスマ」とは何か

——ヴェーバーの「支配の社会学」——

- ◇講師: 捧 堅二さん(大阪経済大学ほか講師/政治学)
- ◇2月14日(土) 午後1時半～5時半ごろ
- ◇尼崎労働福祉会館(阪神尼崎駅下車、駅西の南北道路を北へ10分)
- ◇参加費千円(維持会員五百円)

【講師より】「カリスマ」という言葉を聞いたこと、見たことがありますか。ワイド・ショーや週刊誌でも「カリスマ美容師」とか、「カリスマ店員」とかといった具合に、いささか乱用され気味の言葉ですが、これは、もともとはドイツの社会学者マックス・ヴェーバーの言葉です。「カリスマ」とは何か。「権力」、そして「支配」とは何か。ヴェーバーの政治社会学について、わかりやすくお話ししたいと思います。

アメリカではバラク・オバマが大統領になりました。彼は「カリスマ」的指導者と言っていいと思います。20世紀の初め、ヴェーバーは「カリスマ」的指導者によるドイツの変革を希求しました。100年後の現在のアメリカでオバマによって本当の変革が可能になるのでしょうか。そういうことを念頭に置きながら、政治についての原理的に考える材料を皆さんに提供できればいいなと思っています。

〈知の歴史〉入門講座

※場所・時間・参加費は上記と同じです

ヘーゲル『精神現象学』を読む(第4シリーズ、全3回)

●3月14日(土) ●3月28日(土) ●4月11日(土)

講師・田畑 稔さん(参与、大阪経済大学教授/哲学)

2005年より、19世紀前半に活躍したドイツの哲学者ヘーゲルの『精神の現象学』(1807)を読んでいる。『精神の現象学』は難解で知られるヘーゲルの中でももっとも難解な本であるが、ヘーゲル哲学の誕生を告げる記念碑的な作品であり、哲学の全古典の中でも、読者を魅了してやまない魅力をもつ屈指の傑作であると言える。

また『精神の現象学』には、我々が21世紀的地平で思想を再構築するに際して、「兆候的に」読み取るべき貴重な構想が数多く語られている。講義風でなく、一緒にテキストを読んでいく形で進めたいと思うので、ぜひこの機会にヘーゲルに直接アタックして、哲学的思考を鍛えてみてください。今年からの参加も大歓迎です。